

2019年度塑性加工春季講演会

「テーマセッション」のご案内

講演会運営委員会

2019年度塑性加工春季講演会(2019年6月7日(金)～6月9日(日),同志社大学 京田辺キャンパス)において,下記の4件のテーマセッションを開催いたします。奮ってご応募下さい。ご不明の点につきましては,各セッションのオーガナイザーまでお問合せください。

テーマセッションの特徴は以下の通りです。

- (1) 一般講演とは区別してプログラムを組みます。
- (2) 特定のテーマに関する講演を広く公募します。
- (3) 公募論文の取捨選択や討論時間などの運営方法はオーガナイザーに一任します。(採択されなかった場合には一般講演に回っていただきますのでご了承ください。)

記

申込方法 学会のホームページを利用したオンライン申込をご利用ください。

講演申込用ホームページアドレス <http://www.jstp.or.jp>

申込締切日 2019年2月13日(水)

テーマセッション1 「粉末成形技術と素材開発の現状」

オーガナイザー:近藤 勝義(阪大),磯西 和夫(滋賀大),谷口 幸典(奈良高専),橋井 光弥(豊臣熱処理工業),
協力:接合・粉体加工成形プロセス分科会〔主査:近藤 勝義〕
問合せ先:橋井 光弥(豊臣熱処理工業),E-mail:mitsuya.hashii@gmail.com

金属やセラミックスなど各種の粉末を原料とした成形加工は、他の方法で得るには困難な機能・特性・形状を有する素材や製品を実現できる有力なプロセスです。本テーマセッションでは、粉体や成形加工に関する基礎的研究から、材料およびプロセスの開発、さらにシミュレーションなど、各種粉末の成形技術と素材開発に関する活発な議論を行いたいと思います。

テーマセッション2 「塑性加工におけるIoTおよびセンシング技術の活用」

オーガナイザー:高橋 進(日大),松本 良(阪大),楊 明(首都大)
協力:プロセス可視化・知能化技術分科会〔主査:楊 明〕
問合せ先:楊 明(首都大),E-mail:yang@tmu.ac.jp

塑性加工において、IoTおよびセンシング技術を活用したプロセスの見える化、知能化、さらにコネクティッド・インダストリーが推進されている。本テーマセッションでは、下記論議内容を取り上げ、各種取り組み事例などを俯瞰的にレビューするキーノート講演や各種研究成果の紹介を行い、その課題や今後の展開について議論します。

- ・成形加工プロセスの可視化(見える化)
- ・新センサーの開発
- ・センサー情報の評価方法(含むディープラーニング等)
- ・成形機部品の寿命予測および寿命診断
- ・成形部品の成形性評価

テーマセッション3 「輸送機器の軽量化に資する成形加工技術と成形シミュレーション」

オーガナイザー:桑原 利彦(農工大),蔦森 秀夫(大同大),卜部 正樹(JFEスチール),飯塚 高志(京都工芸繊維大)
協力:板材成形分科会〔主査:桑原 利彦〕
問合せ先:桑原 利彦(農工大),E-mail:kuwabara@cc.tuat.ac.jp

持続発展可能な地球・社会の実現に向けて、輸送機器の軽量化はますます重要な技術開発課題である。本テーマセッションでは、高張力鋼板やアルミ・チタン・マグネシウム合金に代表される軽量化材料の成形加工技術と成形シミュレーション、軽量化部品の成形加工技術についてその最新動向と課題を議論する。

テーマセッション4 「生体機能代替材料・加工技術と医用機器」

オーガナイザー：松下 富春 (中部大), 塩見 誠規 (工学院大), 吉田 佳典 (岐阜大), 古島 剛 (東大)

協力：生体医療材料先進加工技術研究委員会〔主査：松下 富春〕

問合せ先：古島 剛 (東大), E-mail : tsuyoful@iis.u-tokyo.ac.jp

医療分野の質の向上、医療現場の負担軽減、長寿社会への貢献は少子高齢社会においては共通の課題である。主にもものづくり技術に携わる技術者にも持てる力を発揮して医療に係る課題の解決に貢献することが求められている。医用材料、医用機器、表面処理、微細加工、組織・構造制御による高度バイオ機能化、3D 構造体の積層造形などのご講演をお待ちします。

「優秀論文講演奨励賞」について

講演会運営委員会では、塑性加工講演会の活性化と優秀な若手会員の活躍を期待して、新進の研究者・技術者の優秀な論文講演を表彰しております。本賞審査の対象となる方は、**講演発表時に満 35 才以下の会員**です。35 歳以下の講演者で審査を希望される方は、申込時に希望の有無および年齢を選択してください。受賞件数は、分野を偏らないように配慮して、10 件程度とします。ただし、過去に本賞の受賞歴のある方は受賞後 2 年間は欠格期間となります。審査は、座長を含む審査委員による論文内容、発表方法、質疑応答に基づいて、総合的に評価します。優秀論文講演奨励賞の受賞者名及び講演論文名等は、会報誌「ぷらすとす」にて公表するとともに、賞状と副賞を贈り顕彰します。